

はじめに

新学習指導要領が今年度より中学校において全面実施となり、各幼稚園・小学校・中学校においては、趣旨を踏まえた教育活動が展開されております。今回の改訂においては、幼稚園から高等学校までを見据えて、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力として、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養の3つの柱に整理し、子どもの連続した育ちを捉え保障することが求められています。子どもたちがこれからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするため、学習の質を一層高める授業改善、すなわち「主体的・対話的で深い学び」の取組を一層活性化していく必要があります。

一方、学習指導要領の全面実施が進む中、一昨年から発生した新型コロナウイルス感染症により、教育活動に様々な制約が生じました。各学校においては、子どもたちの安全・安心を確保する観点から、地域や各学校の感染状況に応じて臨時休業を余儀なくされたり、感染リスクの高い学習活動の実施について見合わせたりするなど、様々な配慮をしながら学びの保障に向けて努力を重ねてきました。しかしながら、授業時数の確保や子どもたちの関わり方への配慮等から、授業が教え込みになりがちとなり、本来求められる子どもの主体性を育む授業の展開が不十分であったのではないかという課題も生じてきました。

そこで、令和3年度の指導委員会においては、子どもたちの資質・能力を育む授業の改善を目指し、指導委員の授業力向上を図る研究を推進して参りました。本市の目指す子どもの姿「夢中になって学ぶ子どもの育成」を研究主題とし、単元構成の工夫と授業における深い学びのための教師のコーディネート工夫に視点をあて、教科毎に研究授業を実施し、授業の課題をどのように改善していけば研究主題に迫ることができるか協議を重ねてきました。

本冊子は、指導委員の授業の過程を見取り、どのように教師が働きかければ子どもたちが学びに没頭するか、より質の高い授業を求めて改善した足跡を収録しています。私たちは子どもの姿から授業の在り方を学び、日常的に授業の改善に取り組むことが大切です。本冊子を各自の授業改善に活用し、本市の目指す子どもの姿「夢中になって学ぶ子ども」の育成に向けてより質の高い授業の実践に取り組んでいただければ幸いです。

結びに、指導委員の皆様の真摯な取組に敬意を表しますとともに、各学校の校長先生・園長先生のご理解とご協力に改めて感謝を申し上げます。

令和4年3月

二本松市教育委員会教育長 丹野 学

